

シカトする

JJ1SXA/池

「シカトする」とは、「無視する」「仲間はずれにする」など、相手を意図的に無視する行為のことを指す言葉だが、語源を探ると花札の十月札の絵柄に行き着く。

花札の十月札の1枚の絵柄は、紅葉とともにそっぽを向いている鹿が描かれていることから、なにかを無視する際に、十月と鹿の組み合わせで「鹿十(しかとお)する」といった隠語ができ、それがいつしか省略されて「シカトする」として一般的に広まったといわれています。



話変わって、はるか昔の私は佐渡ヶ島の片田舎の高校生、中学生時代の同級生仲間(半分は中卒で就職していた)が、仲間の一人の家の離れ座敷を溜り場にして、花札遊びをしたが、中卒での就職組は、すでに大人の世界で鍛えられていて、最初の内は、高校生グループはボロ負け続きだった。

その内、「おいちよかぶ」に皆夢中になったが、やはり、最初の内は、高校生グループはボロ負け続き、何しろ、絵札をパッと見て、数字が幾つかがわかるまで少し時間を要したのだ。

図柄と月(数字)は以下の通り、1月・松、2月・梅、3月・桜、4月・藤、5月・菖蒲、6月・牡丹、7月・萩、8月・芒、9月・菊、10月・紅葉、11月・柳、12月・桐

そして、数字の呼び方(符丁)は、0はブタ、1はピン、2はニゾウ、3はサンタ、4はヨツヤ、5はゴケ、6はロップウ、7はシチケン、8はオイチョ、9はカブだ。(他の呼び方もある)

「おいちよかぶ」は、2枚か3枚の札の合計数字の1の位の数字での勝負だが、2枚の合計がゴケ以下だったら、もう1枚要求するのが当然だが、ロップウ、シチケンの場合は考え物だ、親の持ち札を予想して、もう1枚要求するか、断るかが勝負の分かれ道、シチケンでもう1枚は、ブタ、ピン、ニゾウ以外は、数字の合計値は下がるからだ。

麻雀の牌の実物など、見たことも無かった、1952年4月28日、サンフランシスコ平和条約発効で主権が回復した頃のこと、未成年が生意気にタバコぶかぶか、博徒気分で大いに盛り上っていた、遠い遠い昔の負の思い出の1コマだ。

(2026年1月記)